



「(人・もの・ことに)主体的にかかわり、仲間とともに伸びようとする子」を育てる

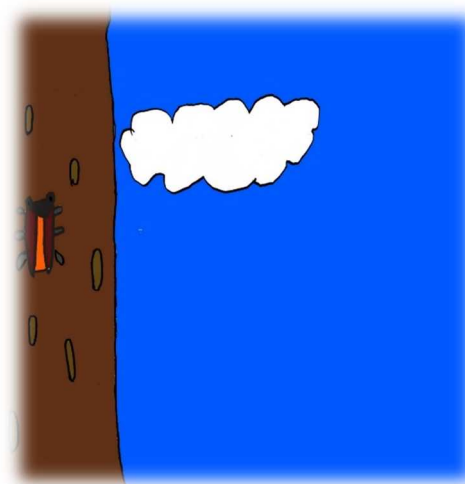
## 『ぼくの高浜小学校』をたくさんの人に読んでほしい

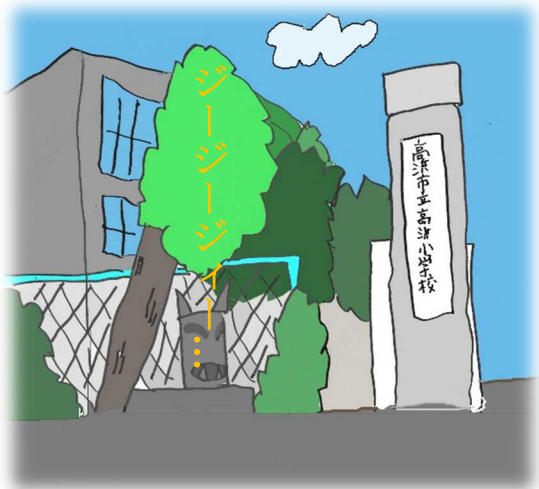
6年生が夏休み前に「現校舎の気に入った場所」を図工の時間に描いていました。彼らは、これまで学校とともに成長してきました。見守り育ててくれた校舎、校庭、プールに様々な思い出があることでしょう。ある子は、仲間と共に学んだ教室であったり、また、ある子は、放課に走り回った運動場であったり、入学式の日、桜の散る中で写真を撮った正門であったり、一つに決めるのが大変だったと思います。そして、卒業、校舎建替が間近に迫り、思いのこもった作品に仕上がりました。

夏休み明けの校長室だよりに、挑戦する夏休み作品『ぼくの高浜小学校』という絵本を紹介したことがありました。この絵本は、6年3組の久保栖々丸君が描いたものです。夏休みにあらためて校庭を歩いて、思い出を手繰りながら、描いたそうです。まさに「現校舎の気に入った場所」をいくつも集めた作品と言えるでしょう。高浜小学校への愛着と遊び心を感じる作品に心なごみます。機会があれば、いろいろな人にご覧いただきたいです。高浜小学校にいる子どもたち、卒業して行った人たち、子どもを通わせた親御さんたちに共感していただけるのではないのでしょうか。

作品は、高浜小学校来賓玄関の「挑戦する夏休み」作品紹介ガラスケースに展示していますので、手に取ってご覧いただくこともできます。また、栖々丸君に新たに三冊も作ってもらいましたので、図書室に蔵書として置かせてもらうことになりました。子どもたちは図書室で読むことができますし、将来の高小の子どもたちにも見てもらうことができます。手作りの心のこもった作品ですので大事に読み継いでいきたいです。また、読み聞かせボランティアの「みらくる」さんにも紹介しますので、教室でも読んでもらえるかもしれません。

なお、6年「現校舎の気に入った場所」作品は、工事現場を囲う塀に写真加工したものを展示する予定ですので、学校へお越しの際、是非、ご覧ください。(文責 中川健二)





ぼくの 小学校は もうすぐ 建て替え  
工事が 始まるから 今日は ゆっくり  
見て回ろう



門の前 雨の日も 風の日も 雪の日だって  
本を 読んでいる 『二宮金次郎くん』  
ぼくの ランドセルも 重いけど きみの  
まきは もっと 重そうだな



体育館の前には 瓦で 作った オニが いっぱい  
こわい オニではなく みんな かわいい顔を  
しているよ



このつづきは また  
読んでね！